



Toyonaka International Friendship Association

TIFA ニュースレター vol. 19

特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか 2009年3月 発行

CONTENTS

2 面

● ネパールからの報告

3 面

● お産のエピソード

● 活動の風景より

4 面

● お知らせ

● イベントカレンダー

・・・ 2009年度に向けて・・・

年々グローバル化が進み、世界の人々がお互いの立場を理解して、助け合わなければならなくなってきました。設立 24 年目をむかえる TIFA も、時代に即して、私たちができる、必要とされる活動をしていきたいと考えています。

代表 葛西芙紗

ともに支えあう仲間として

TIFAと長年のお付き合いのある外国人の中には、日本での経験と努力を積んで「支援される」側から「支援する」側へとたくましく成長し、自立していく人たちも少なくありません。そのような人たちが力を発揮し、よりステップアップする場として、外国人による日本語教室を開講しています。講師として活躍中の女性たちの声をお聞き下さい。

楽しいTIFA「外国語で教える日本語教室」

(2008 年度文化庁委託事業)

私は「TIFA 中国語による日本語教室」の講師の陳琛(チン・シン)です。この教室は中国残留孤児、中国人の研修生を対象に開催していますが、研修生たちは何らかの事情で出席率が悪く、金融危機の影響で、仕事上の契約未満のまま帰国してしまった人もあります。一方、一度も休むことなく熱心に勉強している方もおられます。その様子を見て、たいへん感心しました。

日本で生活している限り、日本語を習得しないと自分にとってはマイナスになるだけです。本教室では中国語で文法を説明するため、初心者にとってはわかりやすいという評判です。内容も受講者それぞれのニーズに合わせ、言葉だけではなく、生活に必要な情報や日本の習慣、文化の差異、日本の歌なども教えています。個人的な相談にも応じています。日本語がわからないため困っている人たちのお役に立てるのはとても嬉しく思います。



陳さん(右端)

母国の研修生のために役立てることの喜び

チューン・シ・キン・ホアです。夫の留学のため日本へ来て 11 年になり、2 人の子どもも大阪で大きく成長しています。その間、大阪外国語大学大学院で学びました。母国ベトナムから来て日本で働いている人

たちにベトナム語を使って教える日本語教室を担当しています。ベトナムの人たちのために役立つことは嬉しいし、TIFAのメンバーや日本語教師の方から、たくさん学んでいます。

外国人の日本語指導者を育てていきたい

こんにちは。サマンティカ・ロクガマゲです。2002 年にスリランカから豊中に来ました。2004 年 12 月、スリランカが津波の災害を受けた時に TIFA が中心になって豊中市民の皆さんが寄付して下さったお金でスリランカの被害地域の子供たちの援助をしました。これを通して私は TIFA の力を知りました。必要とされている所へ駆けつけ、メンバー全員の力を合わせて素直に対応する。これが TIFA の力です。



私は大阪大学大学院で日本語教育を専攻し、現在、日本語能力を有する外国人を対象とした TIFA の日本語指導者養成講座(文化庁委託事業)のアドバイザーとして活動しています。日本語を第 2 言語として学習し、日本語を教え、日本で生活してきた経験を生かすことができるのは非常に嬉しく感じます。日本語を第 2 言語として学習したからこそ学習者の悩みを理解できたり、習得方法を学習者とシェアできたりするので、外国人を日本語の指導者として育てていくことは非常に大切だと思います。これからもがんばって活動をしていきたいです。



ドダウリ村の子どもたちとともに（中央が葛西、右端が櫻井）

ネパール活動報告

葛西美紗

ドダウリ村の診療所は、ボランティア貯金より助成金をいただいていますので、11月より看護師の大森さんが現地へ入っておられ、今回は大村医師がカンボジアから合流してくれました。診療所は大森、大村さんが「子どもの家」の第1期卒業生のサンジャナをサポートし軌道に乗るようにがんばってくださっています。

また、ライオンズクラブの支援により建設された小学校の竣工式へ高橋会長、岡田前会長と共に出席し、ドダウリ村のこれからについて、現地の代表者、HANDS スタッフと共に、何が出来るか？有意義な話し合いをしました。今後の方向を考えていきたいと考えています。

今回の事業につき、大阪鶴見ライオンズクラブから協力金をいただきました。TIFAとして、これからも活動支援・提携などをお願いしたいと思っています。竣工式では会員の樋口さんのご尽力で、出席者全員に歯ブラシを手渡すことができました。

子どもの家報告

櫻井洋子

1月5日カトマンズ到着。ドダウリのCLTCに宿泊後、「子どもの家」に移動し、宿泊。到着後すぐに、近くの小学校へ鉛筆3グロスを持って挨拶に行きました。その後、スタッフと、運営、会計、子ども達の様子、スタッフの意見について等、いくつかの問題点を話し合いました。また、同行して下さったネパール人の大学教授、大村医師、葛西会長とで子どもたちの健康面と心理面のチェックをしました。早急に解決しなければならぬ大きな問題はなかったようです。

ドダウリ村診療所より

看護師 大森淳子

ナマステ！ TIFA がサポートしているネパールの「ドダウリ村診療所」に、昨年11月から医療指導要員として派遣されている看護師の大森です。

シンズリ郡ドダウリ村は、山々に挟まれた平地にあり、大きな2つの川の合流点にあたります。雨季には

川が氾濫して他の町への道は寸断され、また、毒蛇の被害がシンズリ内でも多いと言われている地域です。

このドダウリ村診療所は、現地のNGO・HANDSが“ちゃんとした医療を村人に届けたい”という思いのもと、2008年からTIFAのサポートを受けて運営を始めました。彼らが地に足のついた運営をしていけるようにチェックし、サポートするのが私の役目です。

診療所の主なメンバーは、HANDS代表のバスーさん、CMA（地域医療補助者）のサンジャナさん、村の番人で私のセキュリティでもあるアサラムさんの3人。あとの男性たちはHANDSのメンバーでみんな教師です。HANDSの仲間を一言でいうと、豪快で明るいに尽きます。彼らのパワーをいただきながらドダウリ村で日々暮らしています。



地域住民を支える病院を目指して

医師 大村和弘（TIFA 短期派遣員）

今回はドダウリ村への訪問が一昨年に引き続き2回目であることに加え、元同僚の大森看護師が現地ですでに1ヶ月滞在しており、現場の医療事情や人間関係の細部にわたるまで把握していたため、非常にスムーズに現状の把握と対応に移ることができた。

サンジャナが村で数少ない女性のCMAであり、女性が気軽に訪れることができることから、この診療所の特色を以下の3点に置くこととなった。

- ① 一般的な内科・外科の処置
- ② Family Planning（家族計画）
- ③ 良心的な値段でのお産

丁寧かつ詳細な問診と身体診察を提供できるようになったことによって、地域住民が安心して訪れることができる診療所の下地を作ることができた。今後も大森看護師の継続的なフォローにより、教育した医療技術

が更に確実な技術となり、他のスタッフにもその精神が受け継がれることを期待している。大森看護師にその大役を担ってもらうことができるのは、自分にとっても現地スタッフにとっても幸せなことである。



「子どもの家」の少女たちと

TIFAが現地NGO・HANDSと協力して運営している「TIFA子どもの家」(Happy Girls Home)の後援会員を募集しています。くわしくはTIFA事務局にお問合せください。

ネパール出身のバティさんのメッセージ

TIFAのネパールプロジェクトのメンバーとして活動しています。わたしは前から、学校へ行けないネパールの子どもの教育支援をしていましたが、今年からTIFAの活動の一つとして、みなさんに支援をおねがいして、やっていくことになりました。日本のみなさんといっしょに、ネパールの子どもたちを助けることはうれしいです。



突然のお産介助をやりとげた、サンジャナ！

(大森看護師からの報告)

日本では病院でお産をするのが当たり前ですが、ネパールの田舎では在宅出産が今もなお一般的です。経済的に余裕のある家以外は、身内や近所の女性の村人同士が立ち会って行っています。

ある日、診療所にお産の依頼が来ました。陣痛が始まって1日以上経っているのに子どもが出てこない、他の医療者すべてに断られた、見るだけでもいいから来てほしいと言います。サンジャナはしばらく悩んだ末、訪問する準備を始めました。悩んだ理由は、異常分娩で母子ともに危険な状態にあることは容易に推測でき、何かあった時にその場になれば、村社会なので悪評を立てられる。そんな思いがあったと後に話していました。「たぶん赤ちゃんは厳しいだろうね。」と言いながら、重い気分で村人宅を訪問しました。

赤ちゃんの心音を確認するため、妊婦さんのお腹にフェトスコープをあてました。すると、心音がしっかりと聞こえました。サンジャナは「生きているからこのままお産の介助をする。」と言いだし、準備を始めました。体勢を整え、妊婦さんを励まし時に叱咤し、そして私には、点滴や導尿の指示を、平素よりはっきりとした大きな声で言うのでした。そして、4時間後に、無事、かわいい女の赤ちゃんが生まれました。



無事に生まれて本当によかった、と村人みんな胸をなでおろしました。他の医療者が断った理由は、ハイリスク出産が予測できたのと、貧しい村人なので出産費を払ってもらえない確率が高かったからのようです。その家は土間一つで家族そろって生活をしていました。天井には衣類がぶら下がり、妊婦さんから2メートル離れた土間の隅では、ニワトリが卵を温めているような環境です。

診療所までの帰路、サンジャナとバズーは大はしゃぎ。そんな中、サンジャナのたくましさを見せつけられた大村医師と私は、こう思ったのでした。

「ドダウリ村診療所はサンジャナでいける」と。

活動の風景より

■多文化子育てサロン■

おひなまつりパーティー 2月19日(木)

とても寒い一日でしたが、インドネシア親子3組、韓国2組、インド1組、TIFAスタッフ。総勢20人以上で「食べられる」ひな人形をワイワイ作りました。子育てサロンは外国人親子の交流と情報交換の場。毎月第1・3木曜日に開催しています。



■世界の家庭料理講座■

本場のタイ料理をマスターしよう

2月26日(木) とよなか国際交流センターにて朝10時、26人の参加者が集合してスタートしました。メインはイエローカレーとトムヤンクン。講師のロリーさんの細やかな説明を熱心にメモし、質問も次々とするなど、皆やる気満々。ロリーさん手づくりの野菜のカービング作品もテーブルを彩り、料理だけでなくテーブルセッティングも学びました。



■国際理解教育■

音楽によって通い合うところ

1月14日(水) 豊中市立東丘小学校 子ども教室「音楽に国境はない」それはまさに、アルゼンチンのダミアンさんと東丘の子どもたちとの触れ合いでした。心にしみるギターの音色。彼が演奏を終えると「アンコール〜！」そして子どもたちからは大好きな歌「ポニョ」のプレゼント。恒例のサイン交換、最後は「チャオ！」きょうの子どもたちにとって、アルゼンチン、イコール、ダミアンさんのギター演奏にちがいない。



■TIFA 新年交流会■

1月18日(日) とよなか国際交流センターにて在住外国人、留学生、日頃お世話になっている方々、TIFA会員など、総勢80人が集まり、恒例の新年交流会が開かれました。各自持ち寄った母国の料理、会員のアトラクションなど、手作り感満点の暖かいひとときでした。今年もまた新しい出会いを楽しみに。



お知らせ

タイの高校生・大学生と交流しよう キャンプ参加者募集中!

来る5月3日から5日まで、箕面教学の森野外活動センターで、タイと日本の文化交流キャンプを行います。かねてからTIFAと交流のあった国立シンプリ校の日本語クラスで学ぶ生徒、卒業後日本に関心を持ち続けている大学生の数名を招聘し、地域の高校生とのきたんのない青少年交流の場としたいと考えています。TIFAからボランティア日本語教師を派遣して5年が経つ今、日本とタイの若者たちが互いの文化や社会をまっすぐ見てほしいという思いがあります。今回のキャンプがこれからの末長い日タイ青少年交流へのきっかけとなることを期待しています。関心ある学生、そして大人のみなさん、お待ちしております!



シンプリ校の学生たち

コミュニケーションのための英会話クラス 会員募集!

日本で暮らす外国人の母語はさまざまですが、英語を少し話すと、コミュニケーションをとるきっかけになります。「こんにちは、どこから来たんですか?」そんな声掛けから身近な国際交流は始まります。そのような目的から、TIFAでは下記の英会話クラスをとよなか国際交流センター等で開いています。一度体験レッスンに参加してみませんか?(クラスによっては定員に余裕のない場合もあります)

■レッツ・コミュニケート

毎週水曜日(月4回) 講師:スコット先生
9:30~10:40(中級) 10:50~12:00(初級)

■元気の出る英会話

毎週木曜日(月4回) 講師:ピーター先生
9:30~10:40(初級) 10:50~12:00(中級)



—お問合せは TIFA 事務局まで—

バザーをお手伝いください

留学生・在住外国人対象のリサイクルバザーを4月11日(土)に開催します。来日直後の留学生ら毎回大勢つめかけます。家具や電化製品も扱うため人手が必要ですので、前日の準備、当日の販売や運搬をお手伝いくださる方を募集しています。

「かめのり賞」を受賞しました

「かめのり賞」とは、日本とアジア諸国の青少年交流を支援するために設立された「かめのり財団」により、国際相互理解の増進に草の根で貢献する団体に授けられる賞です。当会の23年間にわたる活動を評価していただいたことは、今後の活動への大きな励みとなりました。



イベントカレンダー

お問合せ・お申込みはTIFA事務局まで(電話・ファックス 06-6840-1014)

<p>生活情報ひろば事業 「地球規模の食の問題と私たちの暮らし」 4月2日(木)10:30~12:00 場所:生活情報センター くらしかん ティータイムもお楽しみに!</p>	<p>生活必需品のリサイクルバザー 4月11日(土)10:00~11:30 場所:とよなか国際交流センター 留学生・在住外国人対象。お知り合いの外国人に声をかけてください。</p>	<p>TIFA セミナー 「もっとアフガニスタンを知ろう」 4月11日(土)18:30~20:30 場所:とよなか国際交流センター 講師:ラジ・サタルさん</p>
<p>ワールドクッカーリー 「春のイタリア料理とおはなし」 4月16日(木)10:30~13:00 講師:小島裕正さん 場所:とよなか国際交流センター</p>		<p>環境井戸端会議 毎月第3日曜 12:30~13:50(予定) 場所:グローバルとよなか 地球規模の環境問題を学び、今私たちにできることを考えましょう。</p>
<p>サンデーバザー 毎月第3日曜 10:00~12:00(予定) 場所:グローバルとよなか 衣類・アクセサリ等の新品が出ます。</p>	<p>多文化子育てサロン 毎月第1・3木曜 10:00~12:00(予定) 場所:とよなか国際交流センター 外国人親子の交流・情報交換の場です</p>	<p>世界の文化シリーズ 月1回(主に月曜)10:00~12:00 場所:グローバルとよなか 世界の文化や暮らしに触れる機会です。</p>

発行: 特定非営利活動法人 国際交流の会とよなか

TIFA(国際交流の会とよなか)は、豊中市にて1985年11月に発足しました。メンバーと地域に住む外国人が協力し、言葉や文化、国籍が異なる人たちがともに生きやすい社会の実現を目指して活動しています。

事務局 〒560-0022 大阪府豊中市北桜塚 4-7-17-109
Tel/Fax: 06-6840-1014 E-mail: tifa99@nifty.ne.jp
お問合せ、お申込みは 月~金曜 09:00~16:00(2009年4月より9:30~17:00)
ホームページ: <http://homepage1.nifty.com/tifa/>

最新のイベント情報はホームページをご覧ください

